

# 臨床腫瘍学

責任者・コーディネーター	臨床腫瘍学講座 板持 広明 教授				
担当講座・学科（分野）	臨床腫瘍学講座、緩和医療学科				
担当教員	板持 広明 教授、木村 祐輔 特任教授、高橋 都 客員教授				
対象学年	4	区分・時間数	講義	8コマ	12.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床腫瘍学では、がんの生物学的特性・病態・薬物療法・緩和医療学を修得し、がんの標準的な治療体系を理解し、全人的医療やチーム医療の必要性を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

腫瘍の生物学的特徴や症候、診断法や治療法の原理を理解し、全人的医療や多職種連携の重要性を理解することによって、有効かつ安全ながん医療を実施する方法について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	がんの生物学的特徴・がんのゲノム医療について説明できる。
2	がん治療の理論・臨床試験の種類と意義を説明できる。
3	代表的な化学療法薬について、種類、作用機序、適応となる代表的疾患、薬物投与方法、副作用を説明できる。
4	がん薬物療法の支持療法について概説できる。
5	がん薬物療法の効果と毒性の評価について概説できる。
6	緩和医療を定義を説明できる。
7	がん性疼痛の種類と病態について説明できる。
8	WHO方式がん疼痛治療法を説明できる。
9	鎮痛薬の種類・投与方法・代表的な副作用とその対策を説明できる。
10	がん終末期の消化器症状、呼吸器症状について病態と治療法を説明できる。
11	死にゆく過程でみられる身体の兆候を説明できる。
12	患者・家族に対する悪い知らせを伝える際の要点を説明できる。
13	緩和ケアにおける多職種連携の重要性を説明できる。
14	がんの緊急症・腫瘍随伴症候群の病態や治療を説明できる。
15	がん診断と治療が患者や家族の長期的な社会生活に及ぼす影響と対応のあり方を説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/28(木)	3	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	臨床腫瘍学総論・ゲノム医療	1,2
講義	5/28(木)	4	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	がん薬物療法1	2,4
講義	6/4(木)	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア1	6,7,8
講義	6/4(木)	4	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア2	9,10,11

講義	6/11(木)	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和ケア3	12,13,14
講義	6/11(木)	4	医学部	高橋 都 客員教授	がんサバイバーシップ	15
講義	6/18(木)	3	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	がん薬物療法2	3,5
講義	6/18(木)	4	臨床腫瘍学講座	板持 広明 教授	がん薬物療法3・がんの緊急症と腫瘍随伴症候群	4,5,14

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	入門腫瘍内科学 改訂第2版	日本臨床腫瘍学会監修	篠原出版新社	2015
参考書	新臨床腫瘍学 第5版	日本臨床腫瘍学会編	南江堂	2018
参考書	がん診療レジデントマニュアル 第8版	国立がん研究センター内科レジデント	医学書院	2019
参考書	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会編	青海社	2013

・成績評価方法

①試験による（総括評価）。
②事前課題によるTBLを随時行い、学生にフィードバックする（形成的評価）。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。
---

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC
----------------

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC	1	講義スライド用